

タカネマスキサ *Carex planata* Franch. et Sav.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。県内では生育地が少なく、また開発の影響を受けやすい所に生育している。

【形態】

多年生草本。地下茎は短く、株をつくる。茎は束生し、高さ 30~60cm、3稜があり、基部の葉鞘は褐色である。葉は細い線形、幅 1.5~2.5mm である。果期は 5~6 月、小穂は 2~5 個、下方のものはやや離れてつき、無柄、卵形~卵円形、長さ 6~10mm、直径 4~6mm、いずれも雌雄性で、基部に少数の雄花、その上にやや多数の雌花をつける。苞は葉状で長く、鞘はない。果胞は扁平で長卵形、広い翼があり、長さ約 4mm、無毛、先端の嘴は短い。雌花の柱頭は 2 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 52057, 1994-6-11)。尾：37a 瀬戸 (芹沢 77893, 2002-7-1)。48 春日井 (外之原町, 日比野修 2278, 1994-6-18) にもあったが絶滅した。

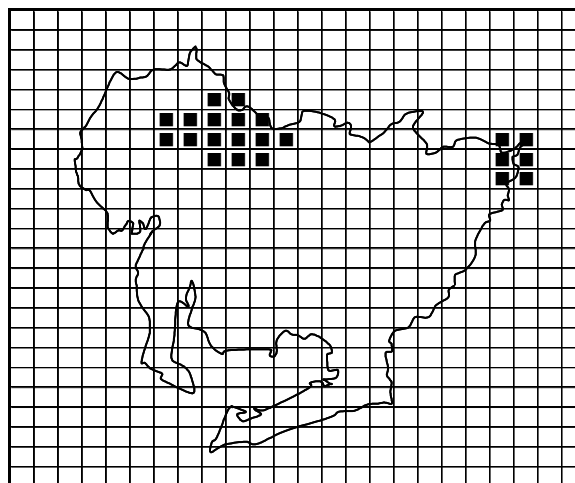
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

低山地の沢沿いの林内などに生育する。どうということのない場所にあるが、それでいて生育地が少ない植物である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○		○	
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

どちらの場所も点在している程度で、個体数は少ない。開発による生育地の破壊が危惧される。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。

【特記事項】

和名はタカネマスキサであるが、高山性の植物ではない。ヤブスゲ (266 頁) に似ているが、小穂が短く、果胞に広い翼がある。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.261, 平草本 I p.166, 平新版 1 p.305, SOS 旧版 p.106.  
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.66. 文一総合出版, 東京.